



2020年6月5日

在学生の皆様  
校納金ご負担者の皆様

福岡女学院大学  
福岡女学院大学短期大学部  
学長 阿久戸 光晴

## 福岡女学院大学 福岡女学院大学短期大学部 ～ 校納金に関するご説明 ～

平素より本学の教育活動にご理解とご協力を賜り、篤く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス(以下、「COVID-19」と称します)の世界的規模による感染拡大に胸を痛め、一刻も早い終息と皆様の御守りを切に祈っております。本学および本学院事務当局へ、皆様方からいくつか学費や施設設備費の返還についてのお問い合わせが届いております。この時点で掲題に関する本学の見解をお示しする時と存じ、以下のとおりご説明いたします。

### 1. 本学院および本学の設置理念

本学院はご高承のとおり、1885年(明治18年)アメリカ人女性ジェニー・ギール宣教師が「女性が新しい生き方を見つけられる学校を創りたい」との祈りにより開学しました。その後同じ思いから、中高・幼稚園・短期大学を経て4年制大学及び大学院が生まれ、今年度で創立135周年となりました。本学院の卒業生がそれぞれの学校で時代状況にあった教育を受けて巣立ち、それぞれの場所において素晴らしい働きをされておられます。この本学院の教育活動は、多大のご寄付と皆様方の校納金により支えられてきたことを憶え感謝申し上げます。

### 2. 本学の校納金について

本学の校納金は、入学金・授業料・施設設備費・その他(後援会費および学友会費)から成っています。今回そのなかでも特に「施設設備費」の返還に関する問い合わせが届いております。本学の施設設備費について、皆様の一部に疑問が生じていることを本学として認識しましたうえで、次のとおりご説明申し上げます。

- ① 本学の施設設備費は、施設設備利用料としてではなく、学生の皆様の在籍期間中の教育施設の取得、現存の建物等の施設の維持管理、教育環境充実のための施設設備改善拡充等に充当される費用となっております。学生の皆様が本学に在籍する期間、より快適な教育環境整備のために還元されていく費用となります。教育施設の取得に必要とする施設設備費には、在学生の皆様方が現在授業等を受けられておられる各建物の建設に必要とした借入金等の返済も含まれております。またこの4月に竣工した本学院の研修施設である「向山寮」、現在計画中的新体育館の建設等についても皆様方の施設設備費からその一部を充当させていただき計画としております。
- ② COVID-19終息後に再び在学生の皆様が本学で学修を継続していく際の健康管理のため、学内諸施設の感染防止対策に係る環境整備などにも、この施設設備費の一部が充当されます。
- ③ 現在行われている遠隔授業をより充分なものとするべくシステムに係る経費、通信環境整備向上費及び教科書郵送にかかる費用及び本学図書館の「図書の貸出〔無償宅配サービス〕及び複写物無償サービス」等の費用にも皆様方の施設設備費の一部を充当させていただきこととしております。

### 3. 本学の校納金に関する対応について

COVID-19感染拡大が終息せず、皆様方の健康を第一に大学への登校を禁止させていただいている期間が続いておりますが、前述2.でご説明した校納金〔特に【施設設備費】〕の用途が、在学生の皆様方の在籍期間中を通じた〔教育施設設備環境の取得・維持・設備改善拡充等〕であることから、今般の本学の結論として、「施設設備費の減額等の措置を講ずる予定がないこと」をお伝えするとともに、どうかこれらの事情をご賢察の上、何卒、ご理解賜りたくお願いいたします。

### 4. 今般のコロナ禍における在学生の皆様への経済支援について

本学での学びの機会を継続していただくべく、在学生及び学費負担者の皆様の家計が急変し、校納金のご負担でお困りの皆様に、緊急経済支援を最大限行っており、現在も継続して学内ネット[Mission-Net]でご案内をさせていただいております。既にご案内済みの本学院の「対象者の皆様への給付型の経済支援」や本学独自の「【給付型】家計急変支援奨学金」の給付枠の拡大等、多くの制度のご案内をさせていただいております。またこの6月、本学院の同窓会や後援会からのご寄付の協力もございました。感謝申し上げます。さらに学院の教職員にも寄付を募り、コロナ禍に関するご寄付を原資とした「在学生への経済支援」についても現在、準備等を行っているところです。

今般のコロナ禍、この試練がどの程度の期間続くのか誰も分かりかねますが、本学はさらに学生の皆様の「学ぶ意欲」を停滞させることのないよう、本学としても最大限の努力をいたす所存です。ご不安等ございましたら別途ご案内(こちらから)しております窓口にご遠慮なくご相談ください。

どうか重ねてのご賢察を心より願います。

新型コロナウイルスの1日も早い終息を願い、祈りつつ。